

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成25年11月8日

**【四半期会計期間】** 第12期第3四半期(自平成25年7月1日至平成25年9月30日)

**【会社名】** 株式会社paperboy&co.

**【英訳名】** paperboy&co., Inc.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 佐藤 健太郎

**【本店の所在の場所】** 東京都渋谷区桜丘町26番1号

**【電話番号】** 03-5456-2622(代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役兼コーポレート部長 久保田 文之

**【最寄りの連絡場所】** 東京都渋谷区桜丘町26番1号

**【電話番号】** 03-5456-2622(代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役兼コーポレート部長 久保田 文之

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第11期 第3四半期 連結累計期間	第12期 第3四半期 連結累計期間	第11期
会計期間	自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日	自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日	自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日
売上高 (千円)	2,832,323	3,072,595	3,809,427
経常利益 (千円)	544,927	493,937	699,900
四半期(当期)純利益 (千円)	308,949	296,096	396,822
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	308,763	299,133	398,376
純資産額 (千円)	1,526,205	1,741,815	1,615,818
総資産額 (千円)	3,167,928	3,460,387	3,375,662
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	232.82	222.93	299.04
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	231.92	220.98	297.68
自己資本比率 (%)	48.2	50.3	47.9
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	394,575	379,925	590,197
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	193,202	883,432	292,328
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	172,421	173,095	172,537
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	1,815,236	1,235,013	1,911,616

回次	第11期 第3四半期 連結会計期間	第12期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日	自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	76.62	51.90

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

本項に記載した将来事象に関する予測・見通し等は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであり、それらには不確実性が内在し将来の結果とは大きく異なる可能性があります。

#### (1) 経営成績の分析

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、新政権発足後の金融緩和策等の景気刺激策を背景とした円高の是正や株価の上昇などを背景に、個人消費や企業収益及び企業の景況感の改善が見られ、緩やかな回復基調となりました。しかしながら、欧州諸国での財政問題の長期化や新興国経済の景気減速、来年4月からの消費税率引き上げなどにより依然景気の先行きは不透明な状態です。

こうした中で、当社グループが事業展開を行うインターネット市場においては、引き続き市場規模が拡大しているものの、競合企業の台頭や新たなサービスの市場投入も続いており、ユーザーからのニーズも多様化しております。

そういった環境の下、顧客単価の底上げや会員数のさらなる拡大を目指し、各サービスでオプション機能の拡充やスペックアップ、スマートフォンへの対応及び、新規顧客の獲得のための各種キャンペーンを行ったことにより、契約件数が伸びました。一方、新規サービスへの投資を継続的に行いました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高3,072,595千円（前年同期比8.5%増）、営業利益498,126千円（前年同期比6.7%減）、経常利益493,937千円（前年同期比9.4%減）、四半期純利益296,096千円（前年同期比4.2%減）となりました。

#### (セグメント別の状況)

##### ホスティング事業

ホスティング事業については、レンタルサーバー各サービスにおいて各種キャンペーンを展開しつつ、容量アップなどスペック向上、機能追加を行ったことにより、当第3四半期連結累計期間のレンタルサーバー契約件数は392,000件（前年同期比27,000件増）となりました。また、レンタルサーバーをはじめとするその他商材での契約件数の順調な増加に伴い、ドメインサービスも堅調に推移し、登録ドメイン数は、867,000件（前年同期比60,000件増）となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間におけるホスティング事業の売上高は2,156,686千円（前年同期比9.2%増）、セグメント利益は、681,502千円（前年同期比5.2%増）となりました。

### EC支援事業

EC支援事業については、大型店舗向けのプラン「プラチナプラン」を新たに追加、顧客単価の増加を図るとともに、電話サポートやコンサルティングによる様々な運営支援を積極的に行ったことにより、当第3四半期連結累計期間の「カラーミーショップ」契約件数は41,600件（前年同期比2,700件増）、「カラメル」の出店店舗数は21,300件（前年同期比1,100件増）となりました。また、昨年からの提供を開始した新規サービスへの継続的な開発・投資を進めております。

この結果、当第3四半期連結累計期間におけるEC支援事業の売上高は713,577千円（前年同期比10.5%増）、セグメント利益は287,515千円（前年同期比10.9%減）となりました。

### コミュニティ事業

コミュニティ事業では、会員数208万名にのぼるブログサービス「JUGEM」において、スマートフォン向けアプリのリニューアルやショップ向けデザインテンプレートの追加を行い、カラーミーショップユーザーへのブログ誘導の強化やその他機能拡充を行ったことにより、当第3四半期連結累計期間のブログ有料プランである「JUGEM PLUS」契約件数は21,350件（前年同期比1,150件増）となりました。ブックレビューコミュニティサイト「ブクログ」は会員数700,000名（前年同期比137,000件増）となりました。

一方、広告単価の下落等の影響により、当第3四半期連結累計期間におけるコミュニティ事業の売上高は202,331千円（前年同期比4.4%減）、セグメント利益は26,528千円（前年同期セグメント利益9千円）となりました。

## (2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における総資産は3,460,387千円（前連結会計年度末比84,724千円増）となりました。これは、主に自社利用サービスのソフトウェア開発投資により「無形固定資産（ソフトウェア）」が増加したこと、投資有価証券の取得により「投資有価証券」が増加したことによるものであります。

負債は1,718,571千円（同41,272千円減）となりました。これは、主に会員数等の増加に伴い「前受金」が増加した一方、法人税等の中間納付により「未払法人税等」が減少したことによるものであります。

純資産は1,741,815千円（同125,997千円増）となりました。これは、主に剰余金の配当により179,142千円減少したものの四半期純利益の計上に伴い利益剰余金が増加したことによるものであります。

## (3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第3四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、1,235,013千円となり、前連結会計年度末における資金1,911,616千円に対して、676,602千円減少しました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

### 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果獲得した資金は、379,925千円（前年同期は394,575千円の収入）となりました。これは、主に税金等調整前四半期純利益の計上によるものであります。

### 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は、883,432千円（前年同期は193,202千円の支出）となりました。これは、主に固定資産の取得や投資有価証券の取得に伴う支払によるものであります。

### 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は、173,095千円（前年同期は172,421千円の支出）となりました。これは、主に配当金の支払によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,500,000
計	1,500,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年11月8日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	1,329,750	1,331,450	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数100株
計	1,329,750	1,331,450		

(注) 提出日現在の発行数には、平成25年11月8日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年7月1日～ 平成25年9月30日	-	1,329,750	-	124,014	-	114,014

## (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (7) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成25年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 200		
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,328,500	13,285	
単元未満株式	普通株式 1,050		
発行済株式総数	1,329,750		
総株主の議決権		13,285	

(注) 当第3四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成25年6月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

## 【自己株式等】

平成25年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社paperboy&co.	東京都渋谷区桜丘町26番1号	200		200	0.02
計		200		200	0.02

## 2 【役員 の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成25年7月1日から平成25年9月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年1月1日から平成25年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,911,616	1,235,013
売掛金	519,866	518,345
その他	180,061	169,232
貸倒引当金	4,478	6,196
流動資産合計	2,607,066	1,916,396
固定資産		
有形固定資産	157,617	166,242
無形固定資産	189,562	227,388
投資その他の資産		
投資有価証券	275,846	982,597
その他	145,569	167,762
投資その他の資産合計	421,416	1,150,360
固定資産合計	768,595	1,543,990
資産合計	3,375,662	3,460,387
<b>負債の部</b>		
流動負債		
営業未払金	53,228	69,816
未払法人税等	165,604	16,134
前受金	1,060,885	1,147,955
その他	467,450	471,852
流動負債合計	1,747,169	1,705,758
固定負債		
資産除去債務	12,674	12,813
固定負債合計	12,674	12,813
負債合計	1,759,844	1,718,571
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	120,867	124,014
資本剰余金	110,867	114,014
利益剰余金	1,383,114	1,500,068
自己株式	586	873
株主資本合計	1,614,264	1,737,224
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,554	4,590
その他の包括利益累計額合計	1,554	4,590
純資産合計	1,615,818	1,741,815
負債純資産合計	3,375,662	3,460,387

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)
売上高	2,832,323	3,072,595
売上原価	1,295,118	1,432,409
売上総利益	1,537,205	1,640,186
販売費及び一般管理費	1,003,063	1,142,060
営業利益	534,141	498,126
営業外収益		
受取利息	7	34
受取配当金	996	2,099
有価証券利息	-	7,721
匿名組合投資利益	11,625	-
助成金収入	-	4,400
その他	742	776
営業外収益合計	13,370	15,031
営業外費用		
投資有価証券評価損	869	2,470
匿名組合投資損失	-	16,089
その他	1,715	659
営業外費用合計	2,584	19,220
経常利益	544,927	493,937
特別損失		
減損損失	-	8,010
特別損失合計	-	8,010
税金等調整前四半期純利益	544,927	485,926
法人税、住民税及び事業税	225,278	174,996
法人税等調整額	10,699	14,832
法人税等合計	235,977	189,829
少数株主損益調整前四半期純利益	308,949	296,096
四半期純利益	308,949	296,096

## 【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	308,949	296,096
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	186	3,036
その他の包括利益合計	186	3,036
四半期包括利益	308,763	299,133
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	308,763	299,133
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	544,927	485,926
減価償却費	85,265	95,583
減損損失	-	8,010
投資有価証券評価損益(は益)	869	2,470
賞与引当金の増減額(は減少)	1,600	-
役員賞与引当金の増減額(は減少)	3,800	-
匿名組合投資損益(は益)	11,625	16,089
貸倒引当金の増減額(は減少)	2,141	1,718
受取利息及び受取配当金	1,003	2,134
有価証券利息	-	7,721
売上債権の増減額(は増加)	52,874	1,521
前渡金の増減額(は増加)	15,324	12,750
その他の流動資産の増減額(は増加)	704	20,118
営業未払金の増減額(は減少)	4,225	16,587
前受金の増減額(は減少)	102,093	87,069
その他の流動負債の増減額(は減少)	28,311	8,968
その他	554	1,777
小計	724,314	687,010
利息及び配当金の受取額	1,003	9,855
法人税等の支払額	330,742	316,939
営業活動によるキャッシュ・フロー	394,575	379,925
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	76,696	55,891
無形固定資産の取得による支出	86,861	90,137
投資有価証券の取得による支出	30,288	704,503
関係会社株式の取得による支出	5,100	14,900
匿名組合出資金の払込による支出	-	25,000
敷金及び保証金の回収による収入	5,744	6,999
投資活動によるキャッシュ・フロー	193,202	883,432
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
新株予約権の行使による株式の発行による収入	-	6,293
自己株式の取得による支出	68	286
配当金の支払額	172,353	179,101
財務活動によるキャッシュ・フロー	172,421	173,095
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	28,951	676,602
現金及び現金同等物の期首残高	1,786,284	1,911,616
現金及び現金同等物の四半期末残高	<sup>1</sup> 1,815,236	<sup>1</sup> 1,235,013

## 【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)
現金及び預金	1,815,236千円	1,235,013千円
現金及び現金同等物	1,815,236千円	1,235,013千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年9月30日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年3月20日 定時株主総会	普通株式	172,510	130	平成23年12月31日	平成24年3月21日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年9月30日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年3月20日 定時株主総会	普通株式	179,142	135	平成24年12月31日	平成25年3月21日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額合計 (注)2
	ホスティング 事業	EC支援事業	コミュニ ティ事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,974,975	645,676	211,671	2,832,323	-	2,832,323
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	1,974,975	645,676	211,671	2,832,323	-	2,832,323
セグメント利益	647,759	322,575	9	970,345	436,204	534,141

(注) 1 セグメント利益の調整額 436,204千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額合計 (注)2
	ホスティング 事業	EC支援事業	コミュニ ティ事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,156,686	713,577	202,331	3,072,595	-	3,072,595
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	2,156,686	713,577	202,331	3,072,595	-	3,072,595
セグメント利益	681,502	287,515	26,528	995,547	497,420	498,126

(注) 1 セグメント利益の調整額 497,420千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	232円82銭	222円93銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	308,949	296,096
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	308,949	296,096
普通株式の期中平均株式数(株)	1,326,991	1,328,188
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	231円92銭	220円98銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	5,138	11,764
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月8日

株式会社 paper boy &amp; co.

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員 公認会計士 松野 雄一郎 印  
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 岡田 雅史 印  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社 paper boy & co. の平成25年1月1日から平成25年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年1月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社 paper boy & co. 及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。  
以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。